

ISSN 1345-4889

2017 年度

# 総合知学会誌

Journal of the Society of Multi-Disciplinary Knowledge

Vol.16, 2017



## 巻頭言

一筋縄ではいかない、懷疑することリセットすること

松田 順

医学・生理学・生命科学の進歩並びに AI やネットワーク&コミュニケーションをはじめとする科学技術の進化や新たなエネルギー利用技術そしてビジネスに世界においても科学技術を応用した社会が生まれる等、時代のスピードがますます速くなることを実感するが、一方で政治、経済、社会の世界では、一筋縄ではいかない複雑な状況が生じてきている。この解決の糸口として、ここに真に人間の知恵を援用しなければならない時代ともいえる。まさにこの知恵の発展形として「総合知」の重要性がますます認識されなければならない。

世界をリードする大国の鼎立による政治・軍事・経済の危ういバランスを保つのは、また北朝鮮やパレスチナ・イスラエル、そしてベネズエラといった小国とはいえその国の存続をかけた決断や行動(暴走)にも世界は注視せざるを得ない。

さらに全地球的な課題としての地球温暖化対策、人口爆発の恐れ(食糧不足と水不足そして農地の不足)、核物質・核兵器の拡散、情報洪水と国家を挙げたサイバー・テロによる攪乱、政治的混乱を主要因とする難民の増大、貿易戦争にもならんなどする国益優先主義に対して、各国は知恵と汗と情熱、忍耐をもって対処しなければならず最終的には人類の知恵を生み応用しなければならない。

人類 700 万年の歩みの中で、ホモ・サピエンス・サピエンス(現生人類)のみが他の人類を押しつけて生き延びてきたというその事実を真剣に振り返ることをしなければならない。他の類人猿と比較し、脳の大きさが大きくなり、前頭葉が発達し、言語というシンボルを使って人間間でのコミュニケーションが図れたおかげで生き延び、現在 70 億人という凄まじい繁栄を遂げてきているのになぜ、知恵がそして知識人がその役割を果たせないのか、まことにもどかしいものがある。

ここにデカルト以来の「自然を支配しコントロールする、いやできる」という西洋の近代思想や一神教の世界の概念にある種の限界を感じるのは私だけであろうか、自然との共生、多元的・アニミズム的な宗教観も再度見直すべきではないのか。あまりに西洋・近代思想にとらわれて(汚染されて)いないだろうか。一度、「思想のリセット」し、新たな発想、新たな基点からの知の総合化、統合化による「組合せの知」を考えていくべきではないのか。知とは厳密な理性論によるものなのか、脳の仕組みとして左脳(論理脳)と右脳(情緒・感情脳)に別れその両方をうまく組み合わせ人間は生きていることを再度思い起こさなければならない。これは又すでに述べた人類 700 万年の歩みの中で獲得してきた知恵でもある。

総合知を生み出す「知的活動」もやはり体力、能力(思考力・懷疑力、反省力)、気力、行動力(実践力)、忍耐力の総合と言えるのではないか。

以上

